

1 社会資本の概要

地元関係者・岡山大学・岡山市・岡山県が「緑と水」をキーワードに「市民提案協働事業」として取り組んだみちづくりです。整備に当たっては、市道を2車線から1車線に狭め、観音寺用水沿いに植栽のある散歩道や雁木のある親水広場を設けるとともに、岡山県総合グラウンドの開口部を増やすなど用

水・道路・公園の一体化を図り、緑と水を活かした空間を延長400mにわたり創出しました。そして、地域では日常的な管理を担い、県民・市民の憩いの場、住民の暮らしの場、子供たちの環境学習の場として活用しています。



歩行者優先のみちづくり



環境護岸（雁木・魚巢ブロック・水草柵）

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

ユネスコの持続可能な開発のための教育（ESD）に基づく地域活動を行うため、地域住民により京山地区ESD推進協議会が立ち上がり、平成19年12月に同協議会の中学生から観音寺用水の整備についての思いを市長に伝えたことがきっかけで整備構想の検討に着手しました。観音寺用水という地域住民が古くから親しんできた地域資源を活かして地域固有のまちづくりを行うため、住民自らが実現可能な整備構想を策定し、それを持って行政へ具体の事業を提案し、完成後は地域が管理運営を行うという「市

民提案協働事業」であり、今後の公共事業の新たな形と住民主体のまちづくりの進め方を示しました。観音寺用水の「水」と岡山県総合グラウンドの「緑」をキーワードに、車中心の道路空間を再構築してコミュニティ道路化するとともに、用水については生態系配慮した環境護岸を設け、また公園のフェンス等を取り除き開口部を増やすなど開放的な空間に改良することにより、用水路・道・公園の一体化を図り、潤いと憩いのある「緑と水の道」を創出しました。



整備推進協議会でのワークショップ



道路と公園の一体化



地域による日常的な維持管理

3 地域への成果や波及効果等

平成26年10月に「ESDに関するユネスコ世界会議」が岡山市で開催されるなど、観音寺用水「緑と水の道」の整備は、都市と自然が共生する持続可能な社会をつくること及び市民提案協働事業という公共事業の新たな形を示すことができ、ESD推進のモデルとなる取組です。この取り組みを次世代に繋げながら身近な地域活動の例をして広まり、新たな取組に繋がることを期待しています。



環境てんけん



キャンドルナイト（灯籠流し）



●受賞者

伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会
協議会会長 高原 久幸

●コメント

今後も、この「緑と水の道」を大切に守り育てながら、次の世代に繋いでいきたいと思えます。

●活動内容

- ・整備に向けた具体的な計画立案
- ・地域での管理活動（清掃・除草）
- ・環境てんけん・キャンドルナイト など

●活動の経緯

- | | |
|----------|-------------------------|
| 平成19年 | 市長と語る会でESDの中学生が事業を要望 |
| 平成20年 | ESD・絵図町内会が市長へ「整備構想」を提言 |
| 平成22年 | 伊島学区連合町内会から整備構想を添えて事業提案 |
| 平成24年 | 本整備推進協議会が発足 |
| 平成24～25年 | 計画の検討と設計・工事 |
| 平成26年 | 市と住民とが協働で管理・運営 |

所在地

岡山県岡山市北区絵図町地内他

活動主体及び連絡先

伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会
協議会会長：高原 久幸

対象となる社会資本

市道伊福町いずみ線（岡山市）
（北区建設課：086-803-1667）
観音寺用水（岡山市）
岡山県総合グラウンド（岡山県）

